

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 光明中学校

【調査日】 令和7年4月14（月）・17日（木）

【調査対象】 中学校第3学年

【調査内容】

【1】 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

【2】 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ② 学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

【問題別調査結果】〈各教科に関する調査の結果 概要〉

(概要) 本校の平均正答率は、国語において全国 54.3%、奈良県 53%、本校 59%であった。数学においては全国 48.3%、奈良県 47%、本校 58%であった。理科においては平均 IRT スコアが全国 503 点、奈良県 492 点、本校 541 点であった。

【生徒質問紙調査結果】

(1) 基本的な生活習慣

○ 基本的な生活習慣の質問に対して、回答が「している」「どちらかといえばしている」である生徒の割合が、朝食 88.8%、就寝時刻 80.4%、起床時刻 92.5%の生徒において生活リズムが確立できているが、就寝・起床に関しては「全くしていない」の回答の生徒がそれぞれ 4.7%・起床が 1.9%であり、やや高い（全国 2.7・0.8%、県 3.6%・1.1%）。

(2) 自己有用感

○ 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対して、肯定的な回答の割合は、87.0%（全国 86%、県 84.0%）、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に対して肯定的な回答の割合が 94.4%（全国 91.6%、県 91.2%）である。昨年度はそれぞれ 81.6%、91.2%であり、自己肯定感のある生徒の割合は高くなっている。

○「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しては否定的な回答が13.1%（全国7.5%、県8.7%）であり、また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対しても否定的な回答が38.3%（全国26.4%、県28.9%）、やや多いことから教師に対して信頼をしていると感じている生徒の割合が少ない。しかし、昨年度は否定的な回答が15.8%、44.8%となっており、肯定的な回答が増えている傾向にある。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する答えとして肯定的な回答が、88.8%（全国86.1%、県83.5%）「友人関係に満足していますか」に対する答えとして「当てはまらない」の回答が5.6%（全国1.7%、県2.1%）となっており、学校は楽しいと思っている生徒の割合は高いが、友人関係に満足していない生徒の割合も高いという結果が出ている。昨年度は、「学校に行くのは楽しいと思うか」という質問に対して、81.5%の生徒が楽しいと答えている。「友達関係に満足しているか」という質問に対して、85.9%の生徒が満足と答えており（今年度86.9%）、今年度は昨年度より肯定的な回答が増えていることがわかる。

（3）向社会性

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対して、肯定的な意見が94.3%（全国89.1%、県90.9%）となっている。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は96.2%（全国95.9%、県95.3%）である。昨年度は96.5%であり、ほぼ同じ値であるが、これについては、限りなく100%を目指していかなくてはならない。あらゆる教育活動において、いじめを許さない、誰もが楽しいと思える学校づくりを行っていく必要がある。

○「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒が97.2%（全国96.6%、県95.9%）いる。家庭教育と共に、道德教育の推進の成果と考えられる。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対しては、「当てはまる」という答えが11.2%（全国22.4%、県19.0%）とやや低い。地域の中での学校を目指すあたり、生徒にどのような働きかけをしていくかの一つの課題であると考えられる。「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒は、昨年度93%であり昨年度より上昇している。

○「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒は72.0%で、全国平均67%、県平均64.0%より高い。学校として、キャリア教育の取組の成果が出ているとも考えることができるが、今後も充実を図っていく必要がある。また、昨年度の65.8%と比べても割合が高くなっている。

（4）学習習慣

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して全くしないという返答は0.9%であり、県平均10.3%、全国平均7.7%と比較してもかなり低い。日常的に勉強に取り組む姿勢があることが見て取れる。昨年は全くしないが7.9%であり、今年度の回答は特に学習に取り組む意欲が高い。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対して、30分以下の返答が80.4%であり全国平均66.2%、県平均73.4%であり、普段の勉強にICT機器をあまり使用していない。昨年度も、30分以下の返答が72.8%であり、本校の課題の一つと考えられる。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対しては、2時間以上が39.2%であり、全国平均32.5%、県平均35.4%であり、特に4時間以上は13.1%（全国平均5.3%、県平均5.9%）となっており、休日での勉強時間が多い。昨年度については、2時間以上は37%、4時間以上は7.9%であり、今年度は大きく伸びていることがわかる。

○「塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」という質問に対しては、「教わっていない」が15.9%であり、全国平均40.2%、県平均29.7%を大きく下回っており、学習塾や家庭教師の先生に教わっている生徒の割合が高いことがわかる。

（5）読書習慣

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対して、「全くしない」という生徒が37.4%で全国平均41.8%、県平均48%より低い。「2時間以上」は0.9%で全国平均、県平均3.6%よりも低く、読書をする習慣はあるが、長時間読書に打ち込む生徒は少ないという傾向にある。

○「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」という質問に対して25冊以下が27.1%（全国平均、県平均とも38.9%）であり、家に多くの本がある状態であることがわかる。また、「新聞を読んでいますか」という質問については、92.5%が「ほとんど、または、全く読まない」と答えており、全国平均82.1%、県平均86.3%と比べても低いことがわかる。「読書は好きですか」という質問については、68.2%が「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」を答えており、これも全国平均61.3%、県平均58.3%よりも高い。

（6）主体的な学習の調整

○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対しては肯定的な回答が72.9%（全国77.5%、県68.7%）、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」についても肯定的な回答が74.8%（全国73.4%、県66.1%）であり、主体的な学習につなげようという姿勢を持っている生徒が多いことがわかる。昨年度のデータからは、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について68.4%という回答が出ていることからこの姿勢は去年よりも強くなっている傾向にあると考えられる。

【調査結果全般について・課題改善に向けての取組について】

昨年度に第3次生駒市教育大綱が作成され、教育の変化や授業の改革に取り組む必要性が生じている。さらに、生駒市でも授業改善が中心的な課題となっていることもあり特に重視されることになる。

本校は、部活動が熱心であり、学校行事に対する取組がたいへん意欲的である。また、キャリアプランナーとの連携の下で先進的なキャリア教育を実践しており、地域や保護者からの協力や支援にも恵まれている。その中で以下のような取り組みが必要と考える。

(1) 自己有用感について

生徒自身の自己有用感の高い一方で、教師に対して信頼を感じる生徒の割合が低い傾向にある。生徒からの声に耳を傾けるだけでなく、教師が生徒を認めているということが伝わる姿勢をとることが重要になると考える。

(2) 向社会性について

他人に対して貢献するという点については、肯定的な回答が多く他人にやさしい生徒が多いと考えられる。一方で地域や社会に貢献したいと考えている生徒の割合がやや低い。地域や社会の中の学校ということを実感させる取り組みが必要であると考えられる。

(3) 学習習慣について

家庭の中で ICT 機器の使用率が低い点については、家庭学習で使用する機会が少ないと読み取れる。特に休日の家庭学習の時間が長く、塾・家庭教師などに教わっている生徒の割合が高い点がこの結果につながっていると考えられる。学校としては、家庭学習の選択肢として ICT 機器が使用できることを周知していくようにしたい。

(4) 読書について

読書の習慣はあるが、長時間読書をする生徒の割合が低い点については、先の学習習慣と関係していると考えられる。余暇の使い方の一つとして読書を推奨するなど生徒の読書習慣をさらに高めていきたい。